

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4290201427		
法人名	社会福祉法人長崎友愛会		
事業所名	グループホームゆうあいホームさわやか		
所在地	長崎県佐世保市瀬戸越2丁目1788		
自己評価作成日	令和4年1月22日	評価結果市町村受理日	令和4年3月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構		
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1		
訪問調査日	令和4年2月16日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年もコロナウイルスの影響で外出支援や外部の方を招いての行事が中々出来ない難しい状況でした。その中で、県内のコロナ状況を常に情報収集し、状況が落ち着いている期間はドライブや家族面会など積極的に行いました。また、他事業所、地域包括支援センター、民生委員様とは書面での運営推進会議や電話を通じて情報の共有を行っています。感染予防に対する職員の意識も向上し、協力医療機関としっかり連携が取れていると思います。事業所としてはこの状況で利用者様に楽しく快適な生活を送っていただくため「コロナだから何も出来ない」で終わらせるのではなく、「コロナだけど何が出来るのか？」を職員みんなで考え、理念である【さわやかな笑い声が溢れる優しい介護】をこれからも実践出来るよう日々努力していきます。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホーム理念である「さわやかな笑い声が溢れる優しい介護」のもと、職員は「もっと優しく、もっと温かく」を合言葉に理念の実践に努めている。職員は入居者との関係性を大切に考えており、日頃から関わる機会を多く持つことで入居者が気兼ねなく自分の思いが言えるような雰囲気づくりや安心して介護が受けられるよう努めている。ホームは自治会や地区の商工会に加入しており、相互に情報共有を図り運営に反映させている。また、ホームは「こども110番」への登録・ホーム玄関にAED設置の表示があるなど地域貢献へ繋げると共に、入居者が地域の一人として生活が送れるよう支援している。ホームは入居者の自宅での役割であった料理や洗濯物等を本人の希望に沿い支援することで、入居者の喜びとなり意欲向上に繋がっている。ホームは入居者の喜びや楽しみ、安心や安全を考えた入居者本位の家庭的で温かなホームであることが窺える。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

ユニット名

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日々の介護をその理念に照らし合わせつつ、ホームとして 常に情報を共有し、日々の実践を行っている	ホーム理念である「さわやかな笑い声が溢れる優しい介護」のもと、職員は「もっと優しく、もっと温かく」を合言葉に理念の実践に努めている。ホームは年間目標と個人目標を設定し、理念の振り返りの機会としている。職員は入居者と関わる時間を大切に考え、入居者の希望に沿った生活が楽しく送れるよう支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナの影響で地域行事やホーム内行事での関りは出来ていないが、電話でのやり取りで情報共有している	ホームは自治会や地区の商工会に加入しており、相互に情報を共有し運営に反映させている。近隣に在住する民生委員を通じてホームの実情を地域へ発信し理解を得ると共に有事の際の協力体制を築いている。管理者は地域の方より施設入所に関する相談があり親身に対応するなど専門職として地域貢献へ繋げている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナの影響で実地出来てない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナの影響で対面での運営推進会議は出来ていないが、書面会議を行い情報共有している	現在コロナ禍である為、運営推進会議は書面にて開催している。運営推進会議には地域包括支援センター・民生委員・知見者が参加し、ホームの活動状況・身体拘束防止委員会・アクシデント報告など詳細な報告を行い理解を得ている。知見者よりコロナ対策や感染状況に応じての面会方法など情報を得て実践したことで家族の安心へと繋がっている。	運営推進会議へ家族の参加がない現状にある。ホームの透明性を図る為にも、家族へホームの実情や取り組み状況などを発信し理解を得ることで、様々な意見を頂く機会となり、更なるサービス向上に繋げることが期待される。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要なやり取りは電話やメールでのやり取りを行っている	現在コロナ禍である為、市町村担当者とは電話やメールでホームの実情を知らせ相談しやすい関係性を築いている。生活保護を受給している入居者に関しては福祉課担当者とはこまめに連絡を取り、入居者が安心して生活が送れるよう支援している。市からの依頼にてホームが主となり地域で介護教室を開催するなど地域貢献へ繋げている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会等で身体拘束の意味を理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	毎日朝礼時に管理者がスピーチロック・フィジカルロック・ドラッグロックについて呼びかけを行い、職員は意識を持って業務にあたることで身体拘束をしないケアに努めている。身体拘束に繋がる事例があった場合は、その都度職員会議にて話し合いを行い支援方法を検討している。今年度は11月・12月に高齢者虐待防止・身体拘束研修に参加し学びの機会とした。	外部研修以外にもホーム内研修や実際の事例をもとにした検討会を開催し、身体拘束をしないケアに取り組んでいるが、身体拘束防止委員会の議事録として記録の不十分さが窺えた。身体拘束防止委員会議事録を整備することでホームの取り組み状況が明確となり更なる身体拘束をしないケアに繋がる事が期待される。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会・勉強会に参加し日々のミーティングにおいて、いわゆるグレーゾーンに属されないケアに注意し、防止に努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	本人(利用者)の尊厳を保ち、制度への理解を活用するため学習の機会を設けている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退去時に契約書・重要事項説明書を詳しく説明し、利用者や家族等の、不安・疑問点を訪ね、十分に話し合い、理解と納得を図っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族との面会時に近況報告や意見・要望を伺うようにして、サービスの向上に努めている	ホームは家族の面会時や入居者の状況を電話で報告する際に意見や要望を聞く機会を持っている。職員は入居者と日頃から関わる機会を多く持つことで気兼ねなく自分の要望が言えるような雰囲気づくりに努めている。入居者からの要望は家族へも伝え、必要に応じて家族の協力を得て支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議の時に意見や提案を話し合いチームとして共有し反映している	管理者は傾聴の心を大切に考えており、職員が意見や提案を言いやすいよう努めている。毎月の職員会議では入居者の支援方法や業務に関する事など多くの意見や提案があり運営に反映させている。夜間の排泄方法や入居者の負担にならないような介助方法を検討するなど、入居者が安心して介護が受けられるよう支援している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人には考課表にて個々の努力等を伝える事ができている、また職場ではストレスケアの取り組み、職員の希望を聞き入れ各自の向上心を持って働ける職場環境に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	不定期だが、ホーム内での研修会を行って介護のレベル向上に努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ネットワークにより、情報交換や活動の取り組みなどを通じて、質の向上に努めている		
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様のニーズを十分に聞き入れ信頼関係を築ける様に努めています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用を始めるにあたり利用者様・家族の方の意見を十分に聞き、ニーズを引き出す努力を行っている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者の状況を見極め何が必要か、医療機関・他の専門職の意見も参考にし、支援とサービスを取り入れている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の個性や生活歴を大切にし、ご自分でできる事は可能な限り本人にして頂き、出来ない事はサポートし共に寄り添って暮らして行ける信頼関係作りに努力している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者が安心して生活出来るよう家族近況を報告を行い、時には家族の協力を得て、ご本人をサポートできる関係を築いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所にはドライブ支援している。コロナ禍なので車からは降りず実施しています	ホームは感染状況に応じて対面や窓越しの面会など面会方法が変更になる為、その都度家族へ連絡し可能な限り面会に来ていただけるよう支援している。入居者より希望があった際は家族へ電話を繋ぎ、また、ホームから家族へ電話連絡をした際に、電話の取り次ぎをホームから働きかけるなど馴染みの方との関係継続の支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う利用者同士を食事やドライブなどのメンバー配慮して良好な関係を保っている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了の際には、困った事があれば遠慮なく相談してほしいという旨を話している		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いを共有し、実現に向けて家族の協力も得ながら取り組んでいる	職員は入居者と1対1で話す機会を大切にしており、普段の会話の中でヒントを得て入居者の思いに沿えるよう支援している。ホームは入居者の自宅での役割であった料理や洗濯物の中から、料理のつぎ分け・皿あらい・洗濯物干し・タオルたたみなど今できる事を抽出し個別に支援することで入居者の喜びとなり意欲向上に繋がっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面会時や電話連絡で、家族や利用者生活歴などを聞き、サービスの向上に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の状態を記録に残し、毎朝の申し送りで、報告している。状況に応じて主治医や他の機関に報告している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者と家族に意見や要望を聞き、月の会議で意見を聞き、ケアプランを作成している。	入居者とは対話で、家族とは電話で意向確認を行い、ケアプラン作成後も再度説明し同意を得ている。入居者の状態や意向、支援方法に変更があった際はその都度カンファレンスを開催し、修正・追加・中止等検討することで現状に即したケアプランになるよう努めている。毎日記録するケース記録にサービス内容の記載と、実施できたかの評価を行うことでケアプランに沿った支援に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の状態・変化を記録に残し職員間で情報共有し介護計画に反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族の思いを聞き取り、既存に捉われないように、柔軟な姿勢でサービスの向上に取り組んでいます		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナの影響で実地出来てないが地域にドライブ支援を行っている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	緊急時はすぐに受診できる体制である。身体状況によって受診が必要な場合は家族に連絡し、受診している	ホームは入居者・家族の意向のもと、月2回の協力医の訪問診療、週1回の訪問看護にて入居者の健康管理に努めている。入居者の体調不良時には協力医へ昼夜ともに相談できる体制を整えている。ケアメモには点眼薬・内服・皮膚疾患に伴う各種軟膏など入居者毎に詳細に記載しており、確実に主治医の指示に沿って支援ができるよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護と利用者の状態を共有し相談し日々の体調の変化の連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には本人の情報を提供し、入院中は面会し状態を確認している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に本人・家族に出来る事、出来ない事を説明し同意を得ている、重度化した場合は再度家族・ドクターと話し合い、チームとして支援に取り組んでいる	ホームは家族へ入居時にホームが対応しうる最大のケアについて説明し、看取りに対しても意思確認を行っている。ホームでの看取り経験があり、今後も入居者・家族の意向に沿って看取りを行っていく方針である。重度化に対する取り組み状況としては在宅酸素に対応可能である。ホームは在宅酸素メーカーに依頼し使用方法や注意点などの指導を受け学びの機会とした。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命緊急研修に参加している、AEDの場所や使用法を把握している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	年2回の防火・避難訓練を実地している。利用者も参加し訓練を実地している	年2回の火災訓練には消防設備点検業者が参加している。訓練にはその日の勤務者と全入居者が参加し一緒に取り組むことで、入居者の動き等を把握しマニュアルに沿って行動することで有事の際の早急な対応に繋げている。近隣に在住する民生委員より有事の際は自宅庭にも避難して良いとの言葉があり、ホームは地域との協力体制を築いている。	自然災害訓練が実施できていない現状にある。ホームは土砂・がけ崩れ・土石流災害の警戒区域に位置している為、自然災害訓練を実施することで、職員がそれぞれの災害に対して知識を深めるとともに、実際にホームにどのような影響を及ぼすかを職員に周知しておくことで有事の際の早急な対応に繋げることに期待する。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	それぞれの人格や性格、認知症の症状の違いを理解し、認知症があっても、周りとの関わり方を考えその人を尊重し、今できることを見つけていけるように努めている	職員は入居者へ声を掛ける際は目線を合わせ、声のトーンや大きさに注意し、威圧感を与えないよう笑顔で対応するよう努めている。今年はホームの年間目標に接遇を挙げており、不適切な言動等あった際は職員同士注意し合い意識を持って改善にあたるなど、ホーム全体で取り組んでいる。職員は排泄誘導の際に本人の耳元で声を掛けるなど入居者の羞恥心に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員の判断ではなくご本人に意志の確認をし判断してもらっている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方のペースに合わせた生活をしている。業務ではなく、職員がその時々に合わせて対応をしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の選択や季節に合った衣類の交換などご家族にも協力してもらっている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備と片付けは利用者と職員が一緒に行っている。食が進まない人への言葉掛けも行っている	ホームは食事を手作りで提供しており、入居者からのリクエスト食にもその都度対応し喜ばれている。行事の際は重箱に豪華な食事を盛り付け、入居者も特別な日と感ずることができるなど楽しませている。食事介助が必要な方もできるだけ自力摂取できるよう支援し、できない部分のみ介助を行うことで、自分で食べることの楽しみを失わないよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を記録に残し、その方に合っているかどうかを見極めながら提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの言葉掛けをし、介助が必要な利用者は職員が介助している		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し言葉掛けしトイレ誘導や3時間置きに尿取りパットのチェックをしている	入居者の状態や排泄パターンに応じて支援方法を検討することで、できるだけトイレでの排泄に繋げ、リハビリパンツから布パンツへ移行できるよう支援している。パットを使用する際も定期的に職員間で話し合い、尿量や排泄間隔をもとに検討を行うことで、使用する時間帯や種類を決定し、入居者が快適に過ごせるよう努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動量や水分量を増やしたり、主治医に相談したりまた、腹部マッサージをして、なるべく自然排便を促している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個別入浴で週2回は入浴できるようにしている湯の温度や脱衣所・浴室の温度調節に留意している	ホームは曜日により入浴日を決定しているが、入居者より希望があればその都度対応可能である。浴槽内にステップがあり、座位での入浴や浴槽を上げる際の足のせとして活用できるなど安全に気持ちよく入浴できるよう努めている。職員は本人が好む会話や歌など入居者が楽しく入浴できるよう支援している。入浴時はボディーチェックを行い、皮膚疾患やケガ予防に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日常生活で活動を充実させることにより、夜間の安眠につなげている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬介助には注意を払い、飲み込みまで確認している。利用者の服薬は個別に包装している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の趣味や日課を継続できる環境を作っている。次分けの手伝いや好きな食事を聴き取り手作りをしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの状況によるが個別の希望に合わせ、可能な範囲で外出支援を行っている	ホームの非常口にある長椅子にて日常的な外気浴や3時のオヤツ、お茶などを楽しむことができ、入居者の気分転換となっている。入居者の希望時は以前住んでいた自宅周辺や街並みの見学などのドライブを行い、入居者の楽しみとなっている。正月や盆など家族との外出時には職員は家族へ日頃の状態を伝え、外出が楽しいものとなるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理に関しては入居時に家族と相談している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればいつでも手紙や電話の対応をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとにイベントや飾り付けを一緒に行っているまた、温度・湿度を測定し空調管理に努めている	リビング2方面の腰窓からは明るい光が入り、温かな空間となっている。フロアには入居者と職員が一緒に作成した季節の飾りがあり、四季を感じることができるなど入居者の目を楽しませている。カウンターキッチンでは調理している音や匂いを感じることができ、家庭的な雰囲気がある。リビングにはソファが設置してあり、好きな場所でゆっくり過ごせるよう配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人で過ごせる場所を確保している。テレビで歌や介護体操などを流し、安心して共用されている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人にとって安心した居心地良い空間作りを行っている	自宅からの持ち込み品としてテレビ・ラジオ・家族写真・仏壇・時計・人形・ぬいぐるみがあり、居心地よく過ごせるよう支援している。入居者の状態に応じて家具やベッドの配置を検討するなど工夫し取り組むことで転倒予防に努めている。居室には室温計・湿度計があり定期的に確認することで入居者が快適に過ごせるよう努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている		